

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	司法研究科
大項目	8 学習環境
中項目	
小項目	8.0.1 施設・設備の確保・整備
要素	授業等の教育の実施や学習に必要な施設・設備が適切に確保・整備されていること。
小項目	8.0.2 図書・情報源の整備
要素	教育及び学習の上で必要な図書・情報源及びその利用環境が整備されていること。
小項目	8.0.3 学習支援体制
要素	学生が学習に集中できるように支援する体制が備わっていること。
小項目	8.0.4 学生へのアドバイス
要素	学生が学習方法や進路選択等につき適切にアドバイスを受けられる体制があり、有効に機能していること。
小項目	8.0.5 カウンセリング体制
要素	学生が適切に精神面のカウンセリングを受けることのできる体制があり、有効に機能していること。
小項目	8.0.6 国際性の涵養
要素	国際性の涵養に配慮した取り組みがなされていること。
小項目	8.0.7 クラス人数
要素	1つの授業を同時に受講する学生数が適切な数であること。
小項目	8.0.8 入学者数
要素	入学者数が入学定員に対してバランスを失っていないこと。
小項目	8.0.9 在籍者数
要素	在籍者数が収容定員に対してバランスを失っていないこと。

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 在学生に対するキャレル割り当て率を100%とする	→キャレル割り当て率	C
2. 学生用の自主ゼミ室を現状の2倍に増室する	→自主ゼミ室の増室数	D
3. 資料室の蔵書数を倍増(12000冊)させる	→蔵書数	D
4. 学習支援に関する学生の要望に的確、迅速に対応して学習支援体制の一層の充実を図るために、学生との意見交換会を年間で4回開催する。	→クラス連絡会との意見交換会の回数、教員と学生の参加者数	B
5. 学習方法や進路など学生の多様な相談に対し適切な個別指導を実現させるために、1年次から3年次までの持ち上がり方式の担任制を構築し、明示する。	→担任制度の決定、公表	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

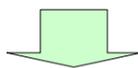
☆ 小項目8.0.1	(現状説明) 学生の自習室や議論のためのスペースが不足している。また教室も不足しており、学生は授業のために法科大学院棟以外への移動を余儀なくされている。
☆ 小項目8.0.2	(現状説明) 資料室の法律図書の蔵書数は必ずしも十分とは言えない。法学部資料室、大学図書館の蔵書は十分に備えられているが、法科大学院棟から離れており、利便性の点から課題を抱えている。
☆ 小項目8.0.3	(現状説明) 学生との意見交換会はクラスの代表者との意見交換という形で、年2回、各2時間程度で開催され、率直な意見交換をしている。
小項目8.0.4	(現状説明) 学生5名程度に1人の担任を配置し、3年間一貫して担任することを教授会で決定した。

★ 小項目8.0.5	(現状説明) 学内の一般的なカウンセリング体制は存在し、相談や診療等も行われている。
★ 小項目8.0.6	(現状説明) カリキュラム上に多様な国際関係科目を開設している。そのなかにはネイティブによる英語での授業もある。また開設時より「英米法総論」を未修者の1年次必修科目としており、新入生全員が主として判例法国の法的思考の特徴に触れる機会を設けている。
★ 小項目8.0.7	(現状説明) 法律基本科目(1年次必修)1クラス30人以下、(2・3年次必修)20人以下、実務起訴科目「専門職責任」は1クラス25人、「民事ローヤリングI」は20人以下。その他の実務基礎科目は1クラス15人程度、特別演習は1クラス10人程度で、適切な規模が保たれている。
★ 小項目8.0.8	(現状説明) 入学定員125人に対し、2008年度から2010年度の3年間の入学者数の平均は、100.3人、入学定員125人の80.3%である。なお2011年度以降、入学定員は100人とすることが決定している。
★ 小項目8.0.9	(現状説明) 収容定員375人のところ、2010年5月1日現在の在籍者数は280人であり、収容定員内の学生数である。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目8.0.1	
小項目8.0.2	
小項目8.0.3	学生との率直な意見交換が学生と教員間の信頼関係を高めている。
小項目8.0.4	
★ 小項目8.0.5	
小項目8.0.6	
小項目8.0.7	
小項目8.0.8	
小項目8.0.9	
その他	



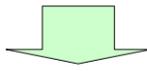
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目8.0.1	
小項目8.0.2	
小項目8.0.3	学生主任が学生代表と相談して意見交換会の開催回数を増やすよう要望するとともに、教員に意見交換会への参加を呼びかける。
小項目8.0.4	担任制が有効に機能しているかを確認するために、学生の勉学等の状況について教授会で意見交換の機会を設ける。
★ 小項目8.0.5	
小項目8.0.6	
小項目8.0.7	
小項目8.0.8	
小項目8.0.9	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目8.0.1	
小項目8.0.2	
小項目8.0.3	学生との意見交換会の開催回数を増やし、教員の参加者数を増やす。
小項目8.0.4	学生にどの教員が担任であることを明示し周知する。
小項目8.0.5	
★ 小項目8.0.6	
小項目8.0.7	
小項目8.0.8	
小項目8.0.9	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目8.0.1	
小項目8.0.2	
小項目8.0.3	学生主任が学生代表に意見交換会の開催回数を増やすよう協議するとともに、教員に意見交換会の開催予定の周知して参加者数を増やす工夫をする。
小項目8.0.4	学生に誰が担任であることを掲示等で明示する。
小項目8.0.5	
★ 小項目8.0.6	
小項目8.0.7	
小項目8.0.8	
小項目8.0.9	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 限られた資源という制約条件の下で、学生の自習室や議論のためのスペースを確保することは困難ですが、実現が期待されます。また蔵書数の増加も焦眉の問題でしょう。他学部または他研究科の蔵書の効果的な利用も合わせて考えることが望まれます。
- 自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、2008年度の認証評価報告書を参考にされて、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。
- 2008年度の認証評価の報告書で認証評価機関から指摘されているように、施設・設備については「改善すべき点が多い」。私立大学としては施設・設備の充実度が質の高い受験生確保にもつながる重要な要素です。受験者数減少と質低下が進む中、図書・情報を含めた施設・設備の整備は必要です。しかしながら、収支バランスを考えざるを得ないのも事実です。今後のロースクールの方向性を定めた上で、総合的、計画的であり且つ効果的な整備を進めることが必要です。
- 奨学金についての記載は不要でしょうか。
- 履修者が多い授業科目はありませんか。
- 入学者数、在籍者数についての経年の数字を求めます。また、中退者について数も含めた記述を望みます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし	
------	--